復讐。

violet?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
復讐。

【Ｎコード】
Ｎ６２９３Ｗ

【作者名】
ｖｉｏｌｅｔ？

【あらすじ】
この、小説は、残酷な蘭の復讐ですので
Ｒ１５とさせていただきます。
覚悟がおありの方はそれ以下でも大丈夫です！

あらすじは、第一章は蘭がコ哀の関係を知っちゃうんですよね。
蘭にとっては最悪だったでしょうね・・・

第一章：蘭の青天の霹靂（前書き）

読者への警告！

ごちゃごちゃ系無理な方やめといたほうがいいカモですw

途中で意味不明なりますよw

第一章：蘭の青天の霹靂

「え・・・？」
最初にそう嘆いたのは、蘭であった。

今までおこったことを説明すると、
コナン&哀がＡＰＴＸ４８６９で、体が縮んでしまったこと、
その薬を作ったのが、哀、いや、宮野　志保だということ、
組織の事も全部話した。

蘭は驚きのあまり、正気にもどれない。

「ごめん、蘭」
「今まで本当にごめんなさい、蘭さん」

「ううん、いいの。おかしいと思ってたし・・・
その組織も消滅したんでしょ？」

「あぁ、だから俺たちも本当の姿に戻れる」
「和葉さんにも、園子さんにも話しました」

「２人にも！？やっぱり服部君は知ってたんだね」

「まぁな、探偵の目はごまかせねぇっつー事だ
しかも、２人とも東京にきてるしな」

「え！？ほんとに！？」

「あぁ、それより俺たちーーーー」

「じゃ、私和葉ちゃんのとこいってくる！」

特急で蘭が出て行ってしまった。

「え？あ　おい、蘭！」

「また言えなかったわね、私たちの関係」

「蘭にはいっとかないとな・・・」

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「な、なに？二人とも改まって・・・」

「言いたいことは、あれだけじゃないんだ・・・」

「そ、そうなの？だったら早く、言ってよ・・・
なんだか怖いじゃない」

「あのな・・・俺たち、本当は付き合ってるんだ」

「え・・・？」

蘭の時が一瞬止まった。

第一章：蘭の青天の霹靂（後書き）

コ哀小説じゃないですw
蘭コでもなんでもないですw

でもよんだからには
全部みてくださいねー！

第二章：理解不能（前書き）

サブタイトル理解不能ですw
意味わかんないですヨネw

わかんない方もわかる方もとりま読んでー><

時間空いてすみませんでした>（＿＿）<

第二章：理解不能

「え・・・？」

「・・・ごめんなさい、蘭さん。全部私のせいなんです！」
哀が半泣きで言った。

「ば、バーロー！・・・蘭！せめるなら俺をせめてくれ！」

「・・・て、いうか・・いきなり言われて意味わかんないし・・・」
蘭は俯いて冷静に言った。

「・・・蘭、俺は変わりもなく哀・・・いや、志保の事が好きなんだ。蘭は守ってやりたい気持ちもあったけど、今はただの幼馴染としか思えねーんだ」
コナンも冷静に言う。

「蘭さん・・・、わたしも工藤君の事が・・・好き。諦めきれないんです・・・。」
哀が涙をこぼしながら言った。

蘭は手に力をいっぱいこめ、
「それじゃあ、私にどうしろっていうのよ！！」
と、言った。

「ごめん。許されないことだとわかってる。俺たち、蘭の前から消えるから」

哀が頷く。

「そんなことで許されると思ってるの！？あの時約束したじゃない！」
蘭は泣きながら怒り、言った。
「俺はもう蘭の中にいちゃいけない存在なんだ。しかも組織の奴らにまだ追われてる。だから蘭には俺を忘れて違うやつと一緒になってくれ・・・」
コナンは顔を上げることなく言った。
哀はいきなり立ち、蘭の目の前で土下座した。
「蘭さん、工藤君を責めないで・・・私を煮るなり焼くなりして！」
「お、おい！哀！何やってんだ！俺が罰をうけるんだ、お前は関係ないだろ！」
コナンが顔を哀に向け、怒鳴った。
「工藤君・・・、私はやっぱりだめなのよ、この世にいちゃ・・・あなたにも蘭さんにも危害を加えて！　最低な女なの・・・」
哀は苦笑いしながら言った。まるで悲しい表情を隠すように。
それをコナンは見逃さなかった。
「俺がいるだろ！俺がお前を一生守るってきめたんだ！だか－－－－－」
「何よ！！」
蘭がいきなり怒鳴る。
「人の家で勝手にいちゃいちゃして・・・。もう出てって！」
蘭の怒りはオーバーヒートだ。

コナンと哀は無理やり追い出され、工藤宅にもどった。

「・・・私、やっぱり蘭さんに申し訳ない。一緒にいるのやめましょ・・・。私しってるのよ、あなたは私が薬の開発者だから死なれちゃ困るってことで私を選んだ・・・・」

哀がいつものクールな表情で言う。

これは図星ともいえることだった。

コナンはまだ蘭が好きだったのだ。

ａｐｔｘ４８６９の開発者に死なれたら、もう戻る薬などない。もう一生このまま。

「灰原、俺は蘭がまだ好きなんだ。でもお前はまだやり残したことがあるだろ・・・」

「・・・これ、なんだかわかる？」

哀はある薬をみせた。

「な、なんだよ・・・それ」

「私たちＡＰＴＸ４８６９をのんでしまったものがこれを飲むと、元の体に戻れるの」

哀は得意げに言った。

「・・・何時間もどれるんだよ」

コナンは疑わしげに言った。

「一生よ。これは完全の薬なの」
哀は静かに言った。

「ほ、本当か？なんでもっと早く言わなかったんだよ！」
コナンがうれしまぎれにおこる。

「早く言うと、あなた蘭さんのとこにいっちゃうでしょ？だからもういいってなったときに渡そうと思ってたのよ」
哀はまた苦笑いして言った。

「な、なんだよ。とりあえずそれ、わたしてくんねーか？」
コナンは物欲しそうに薬をみながら言う。

「じゃあ、最後にキスしてくれる？してくれたら渡すわよ」
哀は上から目線で言う。

「・・・なにがしてえんだよ」
コナンは赤くなりながら言った。

「いいの？じゃあこれは私が独り占めするわよ？しかも、蘭さんとはキスしたくせに私とはしたくないのね」

「・・・わーったよ、すりゃいーんだろ・・・」

コナンは哀に顔を近づけ、そっと唇を重ねた。

「・・・ありがとう。これで十分よ。」

「バーロー、もう言うなよ。　薬」
コナンは思い出したようにいう。

「そうね、はい」

哀はコナンに薬を渡した。

「これ、本当は2つあるのよ、わたしとあなた用に」

「・・・灰原は飲むのか？」

「まだ、決めてないわ」

「・・・」

ピーンポーン

「こんな時間にくるなんて誰？」

哀は不審に思いコナンに聞く。

「博士はいつもなら寝てるだろ？」

ドンドンドン！

今度はドアをたたく音。

「「・・・」」

第二章：理解不能（後書き）

どうなる2人！？って感じですよねw

でもこの2人のドラマはもう少しで終わりますw

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6293w/

復讐。

2012年1月5日19時45分発行